



まちづくり研究会ニュース

発行：JR芦屋駅南地区まちづくり研究会

平成 25 年 10 月

勉強会を行っています！

10月12日（土）午前10時30分より、上宮川文化センター3階大会議室において、第3回の勉強会を開催しました。

当日は、24名（市4名・コンサルタント4名含む）の参加者の方々と駅前広場の持つ交通結節点としての機能について、事務局から整備パターンを示すなどしながら意見交換を行いました。

また、芦屋駅南地区のまちづくりの方向性についても、参加者からご意見をいただきました。

次頁以降でその概要を報告いたします。

プログラム

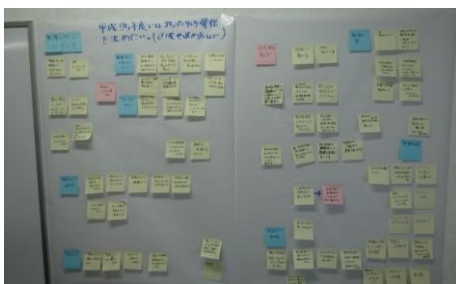
○代表からの挨拶

○勉強会

- ・前回のふりかえり
- ・交通結節点機能に関する検討
- ・芦屋駅南地区のまちづくりの方向性



整備パターンを説明している様子



参加者の意見を付箋に書き出しながら、会議を進めています



勉強会の概要

前回の勉強会において「事業区域や手法を考えるためにイメージできるものを提示してほしい」との意見を踏まえ、今回、芦屋駅南地区の交通等に関する課題を解消するため、駅前広場の基準（「駅前広場計画指針」という基準書）に基づく整備パターン案を提示し、参加者からご意見をいただきました。

■南口駅前広場の課題(駅南に求められる役割)

①駅前広場機能の充足

北口駅前広場に頼ることなく、交通結節点としての機能を充実させる（バス、タクシー等）

②通過交通の排除

東西を抜ける一般車両の通過交通を排除し、駅前広場の混雑を避ける

③歩行者の安全性確保

駅前広場内のバリアフリー化を図るとともに、車両動線との交差を避け、歩行者の安全性を確保する

④南玄関口の顔づくり

駅北だけでなく、駅南の玄関口としての都市基盤、アメニティを整え、新たな都市機能を誘導する

■南口駅前広場の整備方針

■基本的な考え方

1. 歩車分離など安全・安心の観点に配慮し、円滑な流れとなる歩道を配置する
2. 出入り口は1方向からを基本とする
3. 駅前広場内での通過交通を発生させない
4. 植栽の配置、憩いの空間などアメニティにも配慮する
5. 現在の建物立地とあわせて駅南側のまちづくりにも配慮する

上記の課題を踏まえ、整備方針を整理した上での整備パターン（3案）を提示しました。

A案：駅前広場（ロータリー1箇所）の南側に東西道路を配置する案

B案：駅前広場（ロータリー1箇所）と、これに接する街区をつくり、その両側に道路を配置する案

C案：B案に加え、バス・タクシー用と一般車用のロータリーをそれぞれ配置（計2箇所）する案

【意見等のまとめ】

- 整備パターンについては、基準に基づくパターンだけでなく、JRと市の敷地部分のみで整備するパターンなども検討してはどうか、といった意見もありました。
- 整備パターンとあわせて、南側の駅前の姿としてどういったものが良いのかを検討していくことも大切では、という意見もありました。

【参加者の主な意見】

○今後の検討の進め方について

- ・芦屋駅南地区がどういう姿になれば良いのかが見えれば、駅前広場などは自ずと形はできてくる。それらが見えていないので、整備パターンがどうかという議論もできないのでは。
- ・まず、芦屋らしさを議論していき、細かな議論をしていく必要があるのではないかと。
- ・追加案を出すべきとの意見が示されたので、次回は提示すべき。
- ・整備パターン（3案）では「芦屋らしさ」の実現は難しいのではないかと。
- ・交通の課題から土地利用の検討へ具体的なことについて話をしないといけない。

【参加者の主な意見】

○整備パターンについて

- ・駅前広場面積は現在の都市計画決定区域で考えるのか。
- ・本日表示された基準に基づく案は、3案とも大差ないように見える。JRの用地だけで完結するパターンなど、基準以外のパターンも必要では。
- ・基準書の考え方を当てはめたということだが、これを踏まえないといけぬのか。
- ・東西方向の交通は一直線で行き来できたほうが便利ではないか。
- ・基準に基づくパターンでの検討は難しいのではないか。
- ・JR側に駅前広場を寄せる案はどうか。
- ・JRの協力により線路沿いを用地の活用した案についてJRと市とでまず考えて欲しい。
- ・JRの敷地でまとまる案を追加案としてはどうか。
- ・様々な権利者がいることも考えて進めて欲しい。
- ・駅北側の広場のように、南側にも道路側にバス停を取り入れてはどうか。

○駅前の商業施設（機能）の導入について

- ・あまり大きな建物でなくてよいのでは。
- ・東京の成城学園前のイメージが良い。
- ・デパートではなくもっとちろんまりとした店。
- ・ちょっとした時に飲食できる店がほしい。
- ・高齢の方でも入りやすい飲食店がほしい。
- ・商業施設の他に、医院などがあるとよい。

○駅前の動線について

- ・交通動線として国道2号の活用も一つの方法では。
- ・駅前広場との車両の出入口は1つにこだわることか。
- ・都市機能を満たすためには交通の安全性とスムーズさが重要。
- ・交通面では一方通行という考え方も良いのでは。
- ・南の街区から駅に歩行者が上られるようにするのはどうか。（デッキなどで結ぶ）
- ・2Fの高さで人が行き来する考え方はないのか？
- ・駅前広場立体化も案として検討してよいのではないか。
- ・駅前線のセットバック部分がそのままにされていて、整備が進んでいないことについては、自治連の話し合いでも話題に上っている。

○駅前の姿について

- ・南北の駅前広場の雰囲気を含め、機能配置などはアンバランス。ある程度、南の整備が必要。
- ・交通の再整備の計画区域を駅前広場だけに使わないでほしい。
- ・バスバースなどどのように使えるかを議論したい。
- ・交通の課題はJRと一緒に解決すべきではないか。
- ・必ずしも現状のバス停位置を新しいバス停にしなくてもよいのでは。
- ・業平町以外では、茶屋之町の雰囲気が南北の駅前線にもつながるのを期待している人もいる。
- ・まず緑地をつくっていく。時間かけてもいいので駅前広場を緑地（グリーンベルト）にすべき。
- ・駅南側は海側への景観を重視して欲しい。
- ・事業延期時点での結論は、商店街と一戸建の共存だった。
- ・自分のまわりを守るだけで精一杯。（駅北側のことまで含めて考えられない）

○芦屋らしい駅前空間について

- ・「芦屋らしさ」として、イメージを提示しているが、個人的な「芦屋らしさ」と違う部分もある。個人的には、「住宅地」というのが芦屋らしさ。
- ・「芦屋らしさ」は、みんな考えは違う。
- ・「ゆとり」、「芦屋らしさ」の議論も進めてほしい。
- ・「ルナホールがあって市役所があって」というのが芦屋の南側の雰囲気。
- ・「芦屋らしさ」の議論から入ると時間がかかり、駅前のまちづくりが実現しないのではないか。

○JRとの協議などについて

- ・JRとの協議の場で、この勉強会での意見などは伝えているのか。それに対してのJRの意見はないのか。
- ・JRの土地を活用した案が今回提示のパターンの考え方に入っていないのはおかしいと思う。
- ・（市からの回答）JRとの協議は継続的に行っており、勉強会の状況も報告している。

第3回勉強会を終えて

●全体的な勉強会の感想

今回の勉強会では、様々な立場から具体的な意見をいただきました。今後、様々な立場や意向を整理しながら具体的な検討を行っていく必要があると感じています。なお、勉強会の終了時に「ふりかえりシート」として、参加者の「生の感想」をいただいています。その一部を以下に抜粋し、ご紹介させていただきます。

○整備パターンについて

- ・(駅前の整備には) JRの協力が不可欠と思う。
- ・参加者から意見のあったパターン案についても検討をして欲しい。
- ・駅前広場の立体案についても検討してはどうか。

○駅前のイメージについて

- ・駅前のイメージが参加者でそれぞれ異なる。日本(世界)の代表的事例、芦屋にかなう事例の紹介をしてほしい。それを踏まえた議論の中から参加者のイメージとコンセンサスが深まるのではないのか。事例紹介から参加者の合意づくりが必要と思う。
- ・なぜ日本唯一である「芦屋国際文化住宅都市建設法」に基づいたものが基本の考え方にならないのか。芦屋駅の玄関口の整備として、「芦屋らしさ」というあいまいな言葉は使うべきではない。

○勉強会について

- ・一部の参加者の声のみが大きく感じる。
- ・いろいろな意見を伺えて良かった。



**第4回勉強会の日程等は以下のとおりです。
どうぞふるって、ご参加ください。**

日時：平成25年11月9日(土) 午前10時30分より

場所：上宮川文化センター 3階 大会議室

**テーマ：①まちづくりの方向性について
②まちづくりの事業手法について**



■お問い合わせ先

JR 芦屋駅南地区まちづくり研究会

(事務局) ☎659-8501 芦屋市精道町7番6号

芦屋市都市建設部都市整備課

☎ 0797-38-2074 FAX 0797-38-7974